

# フィデリティ退職・ 投資教育研究所 レポート

年齢を感じさせない 70 代投資家の隠れた課題

～投資家 3000 人アンケートにみる 70 代投資家の実像～

2013 年 11 月



# 年齢を感じさせない 70 代投資家の隠れた課題

～投資家3000人アンケートにみる70代投資家の実像～

## ポイント

1. 高齢者の投資勧誘に関するガイドライン制定が注目されている。そこで、2013年9月に実施し、3297人の回答をいただいた投資家アンケートの結果から70代の回答者545人のデータを抽出し、その投資に関する傾向を投資家全体の傾向と比較することで分析した。
2. 70代の投資家は、平均所得で男性が399万円、女性が238万円と低く、年金に依存していることが窺える。ただ、資産は多く男性で2250万円、女性で2837万円に達している。高齢の分だけ長く投資を行っており、最近の株高や円安でもまだ評価損が残っている70代投資家は男性で57.4%、女性で55.4%といずれも過半数に達している(投資家全体では45.0%)。
3. 70代投資家のアンケートがインターネットで実施されていることによるバイアスがあるとはいえ、多くのポイントで投資家全体と70代の投資家に大きな差がないことがわかった。その点で70代は全体として、「年齢を感じさせない投資家」と呼んでいいだろう。
4. ただ、平均的に言えることと、他の年代と比べて相対的に多くなっている特徴は読み分ける必要がある。敢えて70代の投資に関する特徴を挙げると
  - ① 投資のイメージとしては、5割弱が「リスク」で前向きなイメージは3割以下。ただ女性は投資を「ギャンブル」と捉える傾向が強く、その分「前向き」なイメージが少ない。
  - ② 投資目的を「退職後の生活の一助」と考えている投資家が多いが、男性では「投資を通して世間を知る」ためといった副次的な効果を評価する70代が多く、女性は「第3者に勧められるまま」の比率が相対的に高い。
  - ③ 投資に対する考え方では「長期投資」と「投資はタイミング」の相反する考えが両立している。それ以外では男性は「値上がり」志向、女性は「分配」志向が強い。そのため、保有する投資商品は男性が「日本株」、女性は「毎月分配金型投信」が相対的に多い。
  - ④ NISA導入されても「特に変わらない」と考える70代は6割弱に達し、NISAへの期待はそれほど高くないことがわかる。それよりも「優遇税率が20%に引き上げられるので投資はやめようと思う」とする投資家が9.2%となり、NISA導入で「投資額を増やそう」と思っている比率8.0%を上回っている。

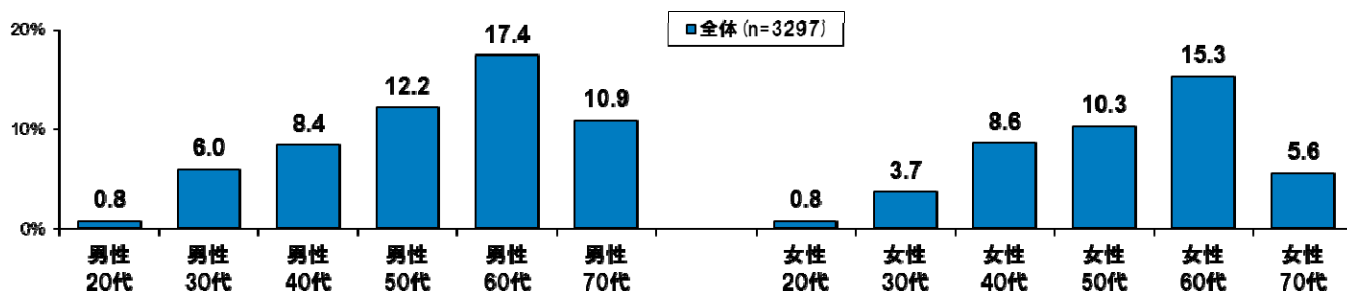
## 目次

- 70代投資家のプロフィール :  
資産2000万円以上だが、  
過半数が評価損
- 投資に対するイメージ :  
70代女性にとって投資は  
ギャンブル
- 投資目的 :  
70代男性は世間を知るため、  
女性は勧められるまま
- 投資に対する考え方 :  
70代男性は値上りを、  
女性は分配を志向
- 保有する投資商品 :  
70代男性は株式、  
女性は毎月分配型投信
- NISA導入に伴う投資態度の変化 :  
70代女性は優遇税制廃止を嫌気

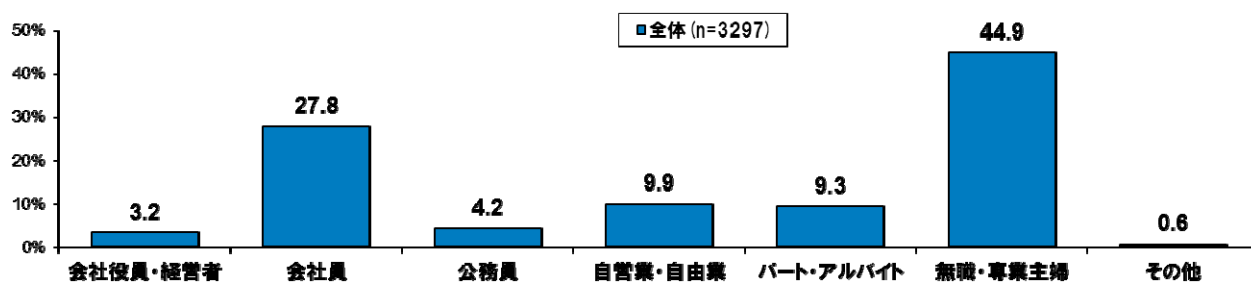
## <アンケート調査の概要>

- 調査会社: Ipsos 日本統計調査
- 調査対象者: 20-79歳の3297名
- 調査地域: 全国
- 調査方法: インターネット調査
- 調査期間: 2013年9月6日(金)～11日(水)の6日間
- 配信パネル数: 8724件
- 本調査回収サンプルサイズ: 3297サンプル
- サンプル構成

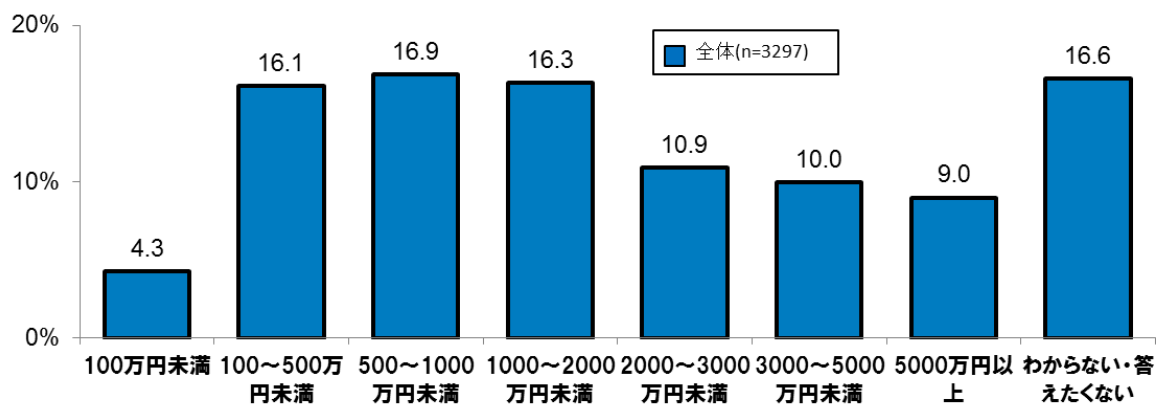
<年代・性別の分布>



<職業別分布>



<保有資産別分布>



(注)四捨五入のため合計が100%にならないところがある。

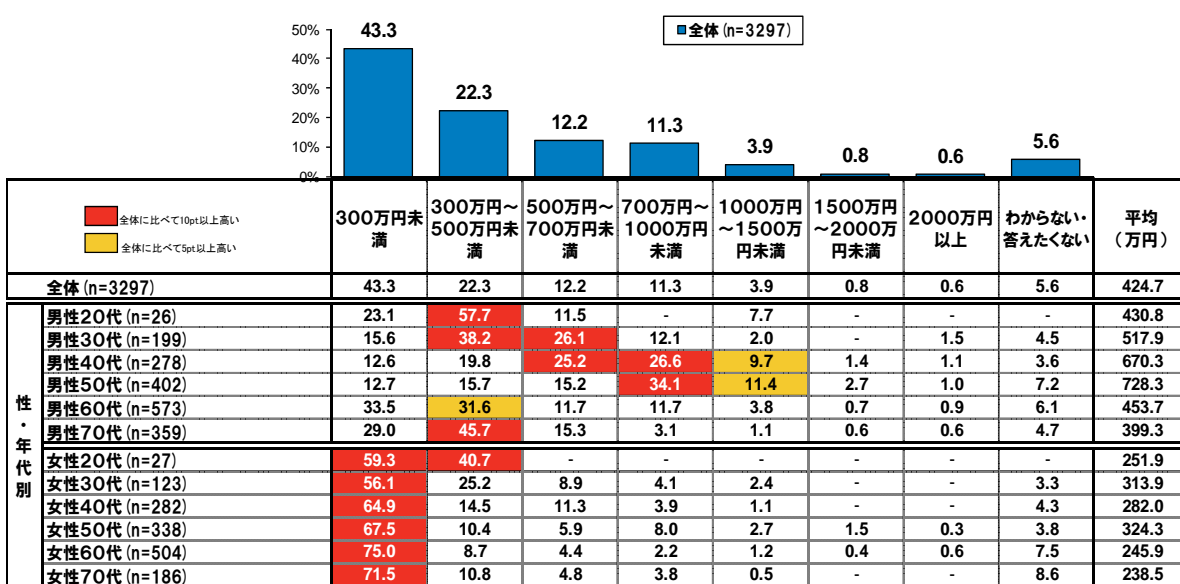
高齢者の投資勧誘に関する新たなガイドラインの制定が注目を浴びている。そこで、2013年9月上旬に行った投資家3297名のアンケート結果の中から、70代の投資家545名に焦点を当ててその投資実像をまとめた。このアンケートがインターネットでの回答を求めるものであるため、インターネットを使える70代の投資家というバイアスは避けられないが、総じて他の年齢層と変わらない投資に関する実像がうかがえる結果となった。

### 70代投資家のプロフィール：資産2000万円以上だが、過半数が評価損

70代投資家は退職後に年金生活を続けながらも保有している資産で投資を継続しているという一般的な姿がアンケート結果でも見られた。男性70代の年収をみると、300-500万円の層が最も多く(45.7%)、その平均年収は399万円。女性70代は71.5%が年収300万円未満で平均年収は238万円となっている。年収は年金によるものが中心と思われ、資産を見ると70代男性で2250万円、70代女性で2837万円と女性の方が多くなっているのがわかる。

ただ、高齢者ほど投資経験は長く、バブル崩壊の過程も経験している可能性があり、その分、投資成果はそれほど良くないようだ。アンケート時の損益状況を聞くと、このところの株価上昇や円安でも過半数が「評価損を抱えている」(男性70代で57.4%、女性70代で55.4%)としており、投資家全体の同値45.0%を10ポイントほど上回っている。逆に評価益が出ているのは男性70代で23.7%、女性で17.2%と、全体28.5%よりも5~10ポイント低くなっている。

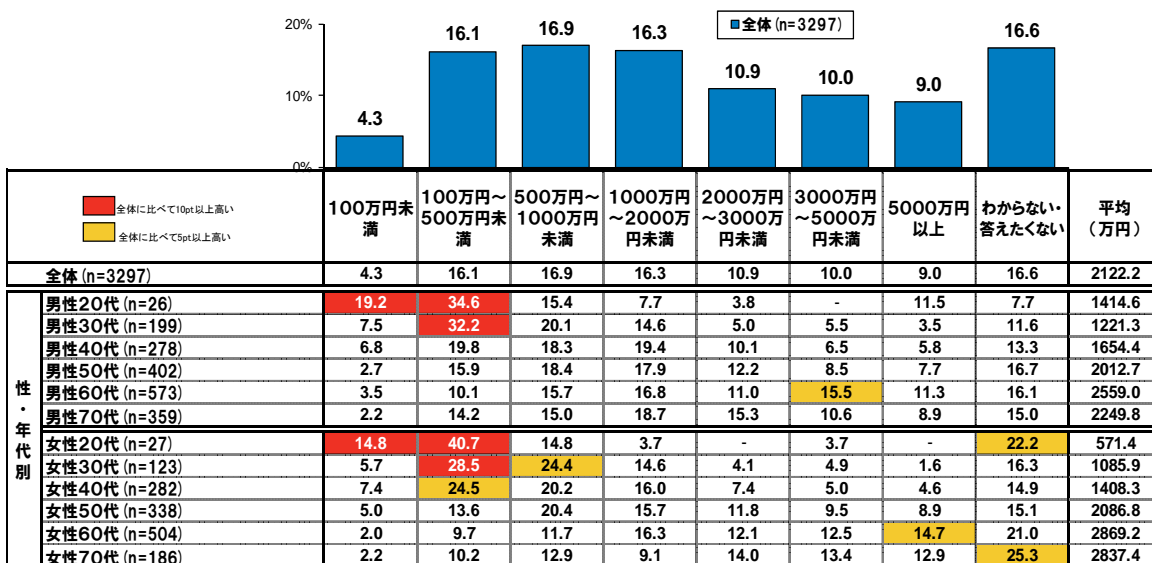
図表1：アンケート回答者の年代・男女別年収 (単位；%)



(出所)フィデリティ退職・投資教育研究所、投資家3000人アンケート、2013年9月

図表2：アンケート回答者の年代・男女別保有資産

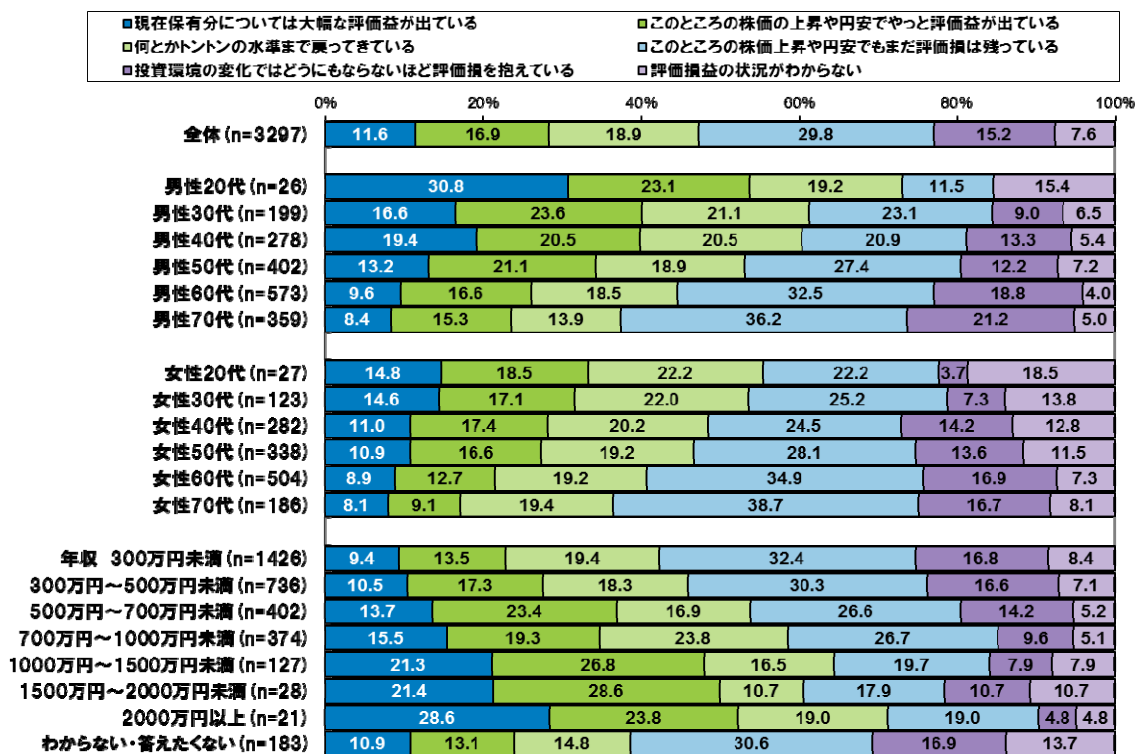
(単位；%)



(出所)フィデリティ退職・投資教育研究所、投資家3000人アンケート、2013年9月

図表3：アンケート回答者の評価益の年代・男女別状況

(単位；%)



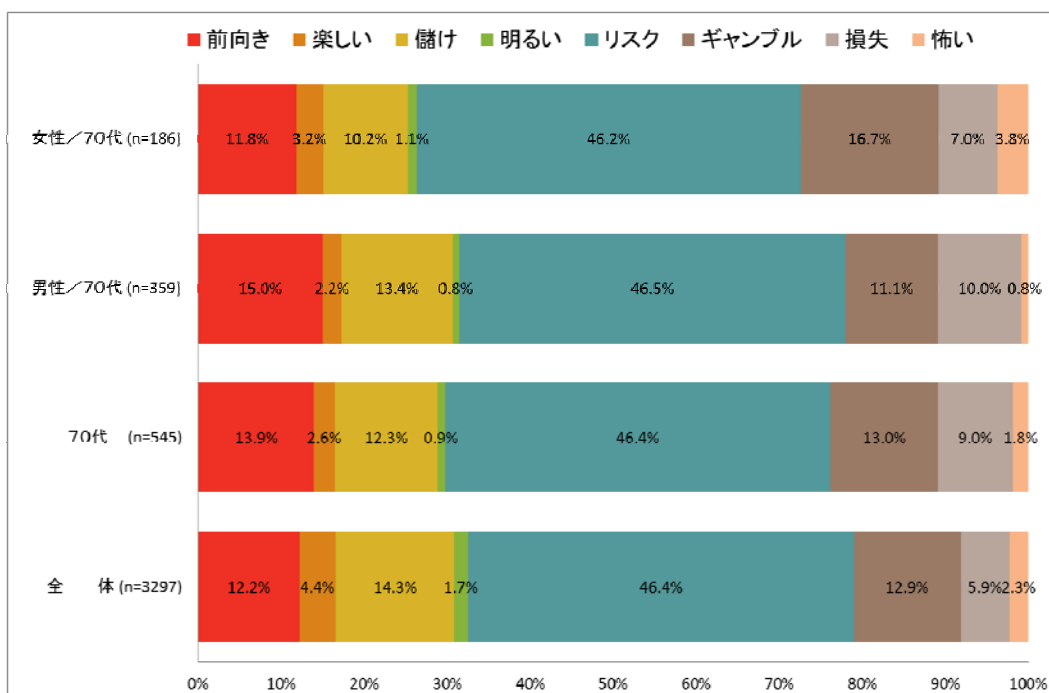
(出所)フィデリティ退職・投資教育研究所、投資家3000人アンケート、2013年9月

### 投資家の投資に対するイメージ：70代女性にとって投資はギャンブル

投資家の投資に対するイメージを集計した。それぞれ「前向き」、「楽しい」、「明るい」、「儲け」、「リスク」、「ギャンブル」、「損失」、「怖い」の8つの言葉から選択してもらい、「前向き」、「楽しい」、「儲け」、「明るい」の4つの総じて明るいイメージの合計を比較してみる。20代から70代までの投資家全体で明るいイメージの合計が32.6%で、70代の投資家の明るいイメージ29.7%とほとんど変わらない。70代の女性が26.3%と若干低いことはあるが、70代男性だけを見れば31.4%と平均値とほぼ同じだ。

投資に対する「リスク」というイメージも全体でも70代でも全く同じ数値になっている。ただ、敢えて特徴を挙げれば、70代女性に「ギャンブル」とのイメージが若干強く出ていることだろう。

図表4：70代投資家の投資に対するイメージ (単位；%)



(注)四捨五入のため合計が100%にならないところがある。  
 (出所)フィデリティ退職・投資教育研究所、投資家3000人アンケート、2013年9月

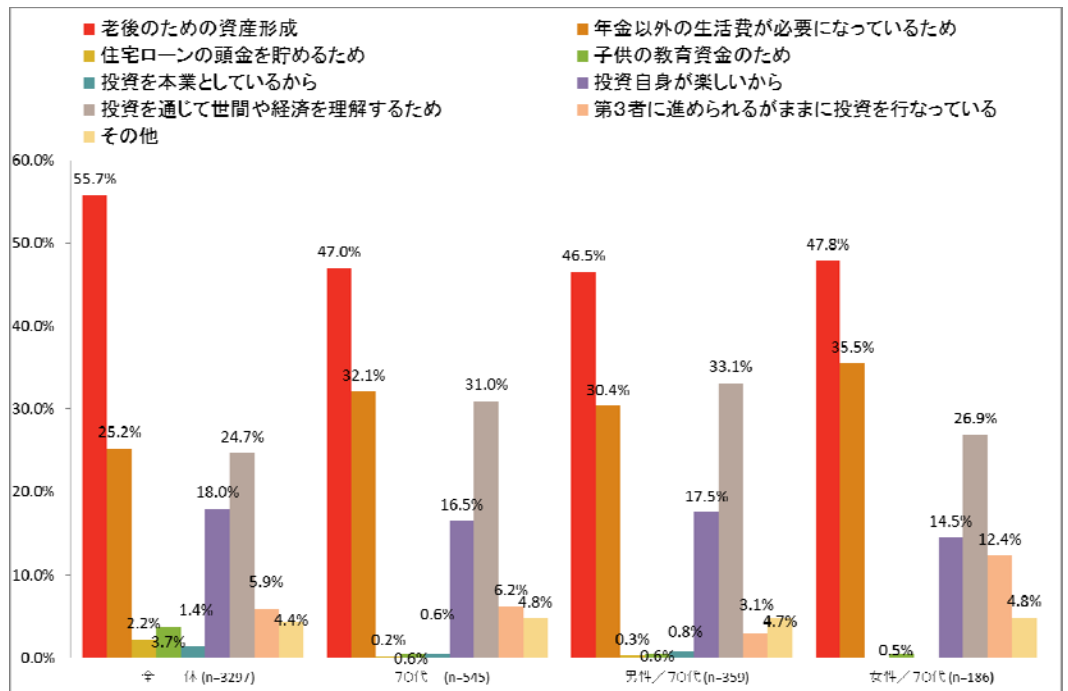
## 投資家の投資目的：70代男性は世間を知るため、女性は勧められるまま

投資目的として最も比率が高かったのが「老後のための資産形成」で、55.7%と過半数を占めた。若年層がそう考えるのは望ましいことだが、70代でも意外に多くの投資家が「老後のための資産形成」と回答していること(47.0%)には驚かざるを得ない。そのほか「年金以外の生活費が必要になっているため」という回答(全体で25.2%、70代で32.1%)もあり、これらを合わせると、年代を関係なく退職後の生活費を賄うために投資をしているのが8割に達している。

また、70代、特に70代の男性にとっては、投資の目的に「世間や経済を理解するため」といったことを見出している人が多くなっている。投資家全体でも24.7%と4人に1人はこうした点を目的に上げているが、70代では31.0%、特に70代男性では33.1%にまで達している。一方、70代の女性で特徴になっているのが「第3者に勧められるままに投資を行っている」というタイプの投資家だ。その比率は12.4%となり、8人に1人はこうした勧められるがままの投資を行っていることがわかった。

図表5：投資の目的

(単位；%)



(注)四捨五入のため合計が100%にならないところがある。

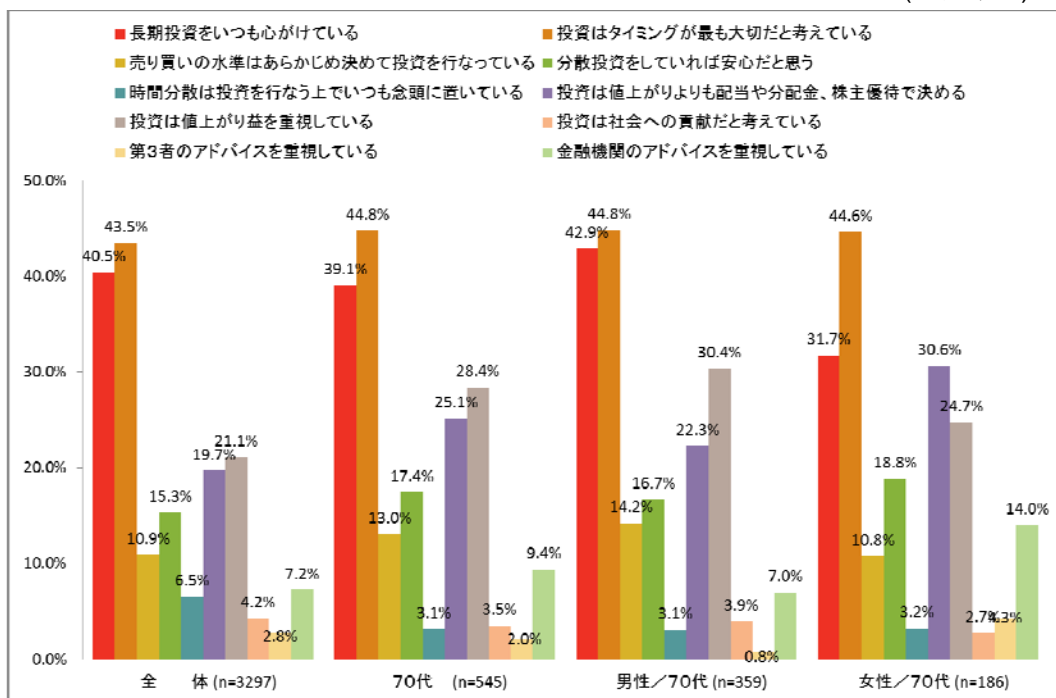
(出所)フィデリティ退職・投資教育研究所、投資家3000人アンケート、2013年9月

### 投資に対する考え方：70代男性は値上がり、女性は分配を志向

投資家の投資に対する考え方に関しては、11個項目用意した選択肢のなかで、まったく対照的な考え方である「投資はタイミング」と「長期投資」がそれぞれ4割以上を占めて、双璧であることがわかった。これは70代でもほとんど変わらない特徴といえる。

ただ、70代男性では「値上がり益を重視している」人が30.4%と全体よりも10ポイントほど高く、70代女性では「投資は値上がりよりも配当や分配金、株主優待で決める」との考え方が30.6%と全体の19.7%を大きく上回っているのが特徴となっている。その分、70代女性では長期投資を心がけるといった視点は少なくなっている。

図表6：投資に対する考え方 (単位；%)



(注)四捨五入のため合計が100%にならないところがある。

(出所)フィデリティ退職・投資教育研究所、投資家3000人アンケート、2013年9月



## 保有する投資商品：70代男性は株式、女性は毎月分配型投信

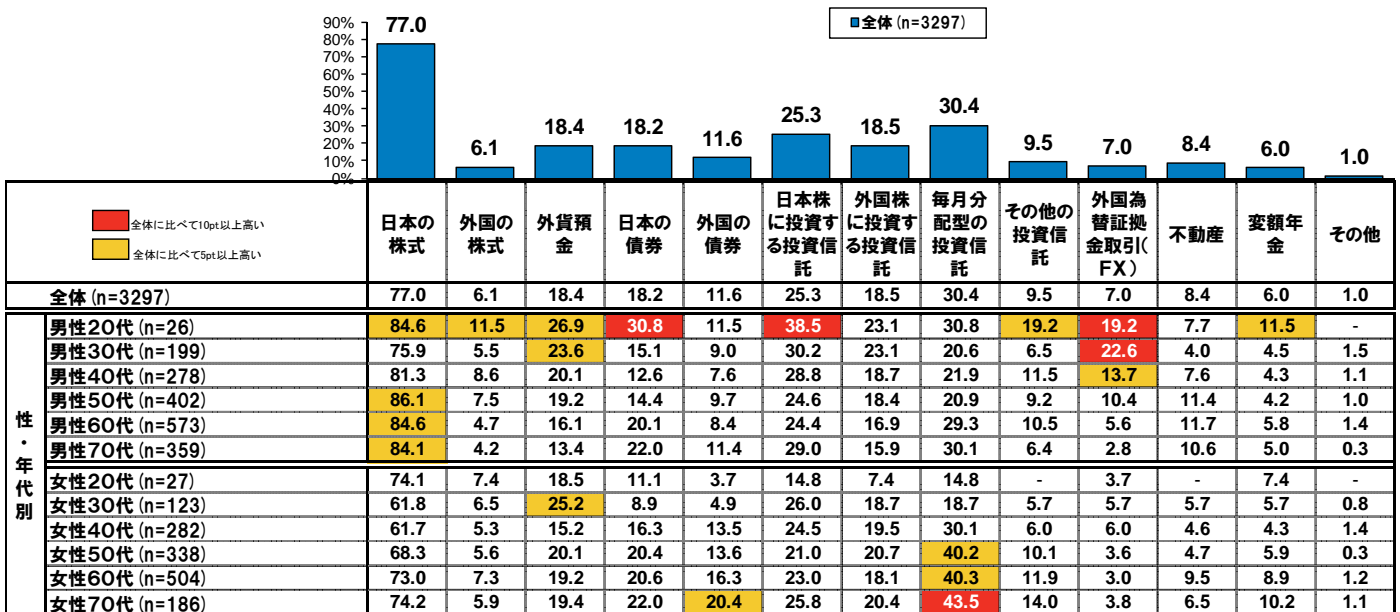
日本の投資家全体としては、保有投資商品の偏りはいわゆるホームカントリー・バイアスもあって特に日本株への集中が非常に高いことで特徴づけられる。

ただ、他の設問と比べて、投資している金融商品は年齢別に大きな差が出ていることももう一つの特徴だろう。20代、30代の男性がFXや債券に投資する比率が高い一方で、高齢者は日本株や分配型投資信託に投資している比率が高くなっている。具体的には、70代の男性で84.1%が日本株を保有しており、平均から7ポイント以上高くなっている。逆に外貨預金は13.4%と平均から5ポイント低く、FXも平均より4ポイント強低い。70代男性の場合には、為替リスクを回避する姿勢、逆にいえばホームカントリー・バイアスが相対的に強いように見受けられる。

一方、70代女性の特徴としては、43.5%が毎月分配型投資信託を保有しており、平均よりも13ポイントも高くなっていることが挙げられる。そのほか外国債券も平均よりも9ポイントほど高く、20.4%となっている。投資に対する考え方で、「配当、分配金、株主優待」を求める姿勢が相対的に強かったことが、投資対象に明確に表れているようだ。ただ、最近の毎月分配型投信が海外の金融資産への投資を通じて高めの収益を狙っているものが多く、外国債券の保有と合わせて総じて為替リスクを意識的か、無意識かはわからないが高めに取っていることは懸念される。

図表7：現在保有している投資商品(複数回答可)

(単位；%)



(注)四捨五入のため合計が100%にならないところがある。

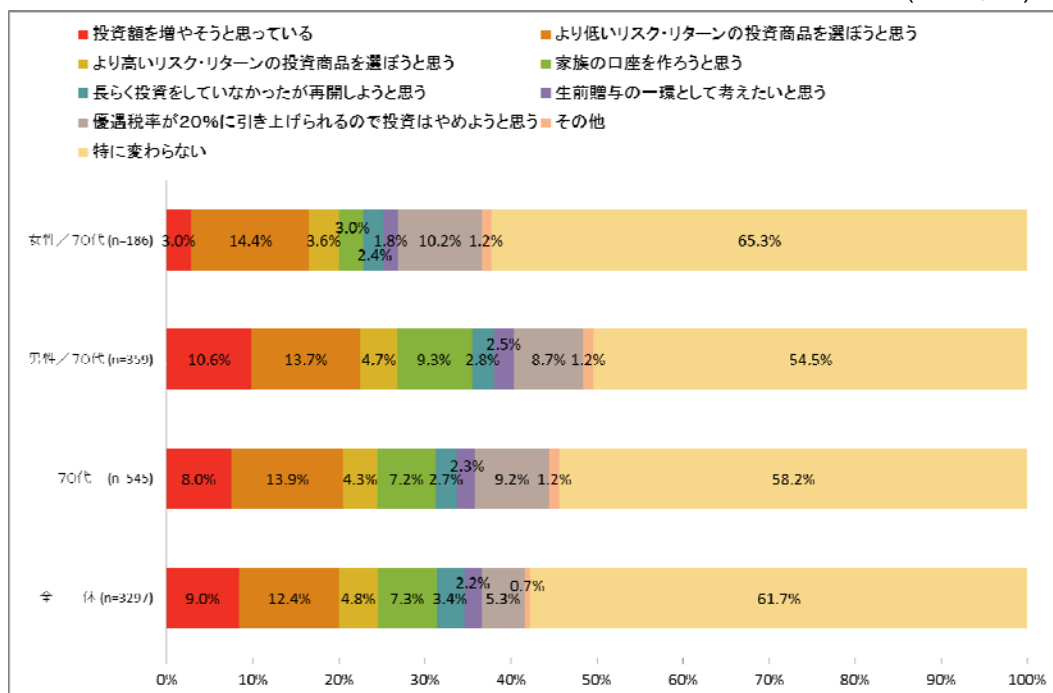
(出所)フィデリティ退職・投資教育研究所、投資家3000人アンケート、2013年9月

### NISA導入に伴う投資態度の変化：70代女性は優遇税制廃止を嫌気

2014年からスタートするNISAで投資家は投資態度を変化させるか、変化させるとすればどう変化させるかを聞いた結果も、これまでの設問と同じで70代だからと言って大きな違いはない。NISAが導入されたからといって6割の70代が「特に投資態度は変わらない」としており、変わるとした4割の方もどう変わるかにほとんど大きな違いはない。

ただ、70代女性は「特に変わらない」とする比率が5ポイントほど高くなり、その分、「投資を増やそう」と考えている人の比率は5ポイントほど低くなっている。また、「優遇税率が20%に引き上げられるので投資はやめよう」と考える人が、70代では9.2%と全体の5.3%を4ポイントほど上回っている。なかでも、70代女性の方がその比率が10.2%と高くなっているのも特徴だ。70代投資家はNISA導入を評価するよりも、投資優遇税制の廃止を嫌気する傾向が相対的に強くなっている。

図表8：NISA導入に伴う投資態度の変化 (単位；%)



(注)四捨五入のため合計が100%にならないところがある。

(出所)フィデリティ退職・投資教育研究所、投資家3000人アンケート、2013年9月

## 重要事項

- ・当資料は、信頼できる情報をもとにフィデリティ投信が作成しておりますが、正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。
- ・当資料に記載の情報は、作成時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。また、いずれも将来の傾向、数値、運用結果等を保証もしくは示唆するものではありません。
- ・当資料に記載されている個別の銘柄・企業名については、あくまでも参考として申し述べたものであり、その銘柄又は企業の株式等の売買を推奨するものではありません。
- ・当資料にかかわる一切の権利は引用部分を除き当社に属し、いかなる目的であれ当資料の一部又は全部の無断での使用・複製は固くお断りいたします。
- ・投資信託のお申し込みに関しては、下記の点をご理解いただき、投資の判断はお客様自身の責任においてなさいますようお願い申し上げます。なお、当社は投資信託の販売について投資家の方の契約の相手方とはなりません。
- ・投資信託は、預金または保険契約でないため、預金保険および保険契約者保護機構の保護の対象にはなりません。
- ・販売会社が登録金融機関の場合、証券会社と異なり、投資者保護基金に加入しておりません。
- ・投資信託は、金融機関の預貯金と異なり、元本および利息の保証はありません。
- ・投資信託は、国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資一単位当たりの価値が変動します。従ってお客様のご投資された金額を下回ることもあります。又、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては目論見書や契約締結前交付書面を良くご覧下さい。
- ・投資信託説明書（目論見書）については、販売会社またはフィデリティ投信までお問い合わせください。なお、販売会社につきましては以下のホームページ(<https://www.fidelity.co.jp/>)をご参照ください。
- ・ご投資頂くお客様には以下の費用をご負担いただきます。
  - ・ 申込時に直接ご負担いただく費用：申込手数料 上限 4.4%（消費税等相当額抜き4.0%）
  - ・ 換金時に直接ご負担いただく費用：信託財産留保金 上限 1%
  - ・ 投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用：信託報酬 上限 年率2.123%（消費税等相当額抜き1.93%）
  - ・ その他費用：上記以外に保有期間等に応じてご負担頂く費用があります。目論見書、契約締結前交付書面等でご確認ください。
- ・ ※当該手数料・費用等の上限額および合計額については、お申込み金額や保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。ファンドに係る費用・税金の詳細については、各ファンドの投資信託説明書（目論見書）をご覧ください。
- ・ ご注意）上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。
- ・ 費用の料率につきましては、フィデリティ投信が運用するすべての公募投資信託のうち、徴収する夫々の費用における最高の料率を記載しておりますが、当資料作成以降において変更となる場合があります。投資信託に係るリスクや費用は、夫々の投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前に良く目論見書や契約締結前交付書面をご覧下さい。

(2019年10月1日現在)

フィデリティ投信株式会社 金融商品取引業者  
登録番号： 関東財務局長（金商）第388号  
加入協会： 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

MK131023-1